

5 数値目標別進捗状況

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部健康対策課					
指 標 名	基準値	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	目標	
	H21orH22	実績値	実績値	実績値	(H27)	達成度	
病気予防や健康維持のために日頃から取組みをしている市民の割合	68.1% (22.2調査)	—	64.8% (25.5調査)	—	75%		
指 標 の 説 明	<p>食事や運動など日頃からの意識的な取組みが、健康の維持・増進や疾病予防、老年期の寝たきり予防などにつながると考えられていることから、市民の75%が積極的に意識して行動することを目標とします。</p> <p>【まちづくりに関する市民アンケートの結果】</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組状況)</p> <p>市民一人ひとりが、運動や食生活等日々の生活習慣改善について取り組めるよう、特定健診を受診され、保健指導が必要な方に特定保健指導（動機付け支援及び積極的支援）を実施し、またふれあいの里において定期健康相談を月1回から2回行っている。特定保健指導の利用については、対象者に対して電話や訪問での勧奨を行った。</p> <p>運動実技を中心とした10回シリーズの教室のほか、男性に対しては、調理実習を中心に病気の予防及び運動等について8回シリーズの講習会を行っている。</p> <p>(成果)</p> <p>特定保健指導や健康教室等を実施することで、市民の健康維持・増進や疾病予防の意識を育むことに努めた。</p> <p>特定保健指導の実施率は前年より1.1%減となった。教室・講習会の参加延べ数は前年より80人減となった。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>特定保健指導の利用者数及び実施率の増加を図るため、内容や利用勧奨の工夫に取り組む。地区保健推進員及び食生活改善推進員と連携を図り、地域での啓発を継続していく。</p>							

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部健康対策課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
公民館を単位として実施する健康教室に参加した市民の数	3,429 人 (22.3.31現在)	4,676人	4,981人	4,548人	4,050人	A	
指 標 の 説 明	健康づくりに関する地域の力を高めるため、市内27地区にある各公民館の参加人数が150人を超えることを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組状況)</p> <p>健康に関する知識の普及や啓発を目的に、各公民館で医師、保健師、栄養士等により健康教室を実施している。</p> <p>(成果)</p> <p>運動、食生活、心の健康の他、病態別（糖尿病、高血圧等）や薬の話など、幅広く知識を深めることができている。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>目標値に到達している。</p> <p>今後も公民館を中心に、地域に密着した健康づくりに取り組んでいく。</p>							

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部健康対策課					
指 標 名	基準値	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	目標	
	H21orH22	実績値	実績値	実績値	(H27)	達成度	
1歳6か月児健康診査の受診率	95.5% (22.3.31現在)	97.6%	97.3%	96.1%	100%	B	
指 標 の 説 明	<p>定期的に健康診査を受けることは、健康的な発育と発達だけでなく、育児不安の解消など総合的な母子保健施策につながることから、全ての対象児（医療機関で受診する児童を除く）が受診することを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組状況)</p> <p>ごみ分別収集カレンダー&健康ガイドに受診日、受診対象幼児の表示を行うとともに、1歳6か月児健康診査対象の全幼児に個別受診案内を送付し、受診勧奨を行った。</p> <p>また、健診未受診幼児の保護者に対し、個別通知により次月の受診勧奨を実施した。</p> <p>次月においても未受診の場合には、保護者に対してアンケートの送付を行い、未受診の理由、幼児の現状把握等の記入を求め、状況把握を行った。</p> <p>(成果)</p> <p>個別通知による受診勧奨の結果、受診につながった。</p> <p>未受診児の保護者からのアンケート回答により、医療機関での経過観察中等、未受診児の状況が把握可能となり、それに応じた対応が可能となった。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>ほぼ目標値に到達している。</p> <p>健診未受診者からのアンケート返送が無い場合や返送されたアンケートの回答内容によっては電話及び訪問を行い、情報収集や受診勧奨等を実施した。</p> <p>今後も長期療養のため医療機関で受診している幼児を除き、全ての幼児の受診を目指し受診を勧めていく。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部健康対策課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
大腸がん検診の受診率		28.5% (22.3.31現在)	28.7%	28.9%	28.9%	50%	C	
指 標 の 説 明		<p>食生活の変化に伴い近年、大腸がんで死亡する人の割合が増加傾向にあります。(本市におけるがんの部位別死亡数では、肺がんに次いで第2位。女性では第1位)</p> <p>大腸がん検診は、採便して医療機関に提出するだけの身体的負担のかからない手軽ながん検診であるため、受診の促進を図り、国の「がん対策推進基本計画」に定められた50%を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組状況)</p> <p>広報・ホームページ・健康ガイド等での啓発及び地区保健推進員や食生活改善推進員による地域での声かけ、公民館等でのあらゆる機会を通しての啓発を実施している。</p> <p>また、国の「がん検診推進事業」を活用して40歳、45歳、50歳、55歳、60歳のふしめ年齢の方を対象に無料クーポン券を対象者9,389人に送付した。</p> <p>(成果)</p> <p>受診率は平成24年度と同じであるが、受診者数は24人増加した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成26年度も「がん検診推進事業」を活用して国の補助を受け、ふしめ年齢の方を対象に無料クーポン券を配布する。</p> <p>地域での啓発を広めるため、地区保健推進員及び食生活改善推進員に対し研修を行い、自らも受診し、家族へ、仲間へ、地域へと普及活動に取り組めるよう支援していき、徐々に受診率を伸ばしていく。</p>								

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部健康対策課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度	
日本脳炎予防接種2期 (対象年齢9歳～13歳の 間に1回接種)の接種率	44.9% (22.3.31現在)	71.2%	48.6%	48.0%	80%	C	
指標の説明	<p>日本脳炎は、国内の発症率が著しく減少したこと等により予防接種の積極的勧奨が差し控えられたため、抗体を持たない児童が増え、感染事例が発生した場合の流行が懸念されています。</p> <p>2009年から新型ワクチンによる予防接種が定期接種として開始され、1期(生後12ヶ月～90ヶ月)と2期(9歳～13歳)の両方を接種することにより、基礎抗体をほぼ定着できるといわれています。</p> <p>このため、2期予防接種率を1期予防接種率と同程度の80%まで向上させることを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組状況)</p> <p>広報よなご、ホームページ及びごみ分別収集カレンダー&健康ガイドに掲載し、周知を図ったほか、小学校を經由して対象児の保護者にチラシを配布し、接種勧奨を行った。</p> <p>平成23年度は、差し控えのため接種が終了していない者の接種対象年齢が拡大されたことにより、一時的に接種者が増えた。しかし、差し控えによる未受診者の対象年齢拡大の制度は継続しており、継続して周知に努めているが、平成24年度以降の接種者数は伸びていない。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、対象児の保護者にチラシを配布するなど接種勧奨を行い、接種率の向上を図る。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部こども未来課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
保育所の入所待機児童数		32人	21人	56人	56人	0	D	
指 標 の 説 明		少子化対策の一つとして、子どもを育てながら働き続けられる環境の整備が重要であるため、入所待機児童の解消を目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>私立認可保育所の改築により低年齢児の入所枠を40人拡大するための施設整備に着手した。</p> <p>また、既存の保育所において保育士を確保するなどして受入の拡大を図ったが、平成25年10月1日の待機児童調査の結果、56人の待機児童が発生し、待機児童の解消には至らなかった。</p> <p>認可外保育施設においても低年齢児の入所枠を増やしている。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>社会保障と税の一体改革により検討中の保育制度改革が実施される際に、保育サービスの需要を調査・把握し必要な供給量を見込むとともに、既存の保育施設が有効に活用されるよう認可保育所だけでなく幼稚園及び届出保育所等との協議・調整を行い、保育が必要な子どもの入所定員枠の拡大を図ることで待機児童の解消に努める。</p> <p>また、平成26年度においても認可保育所の施設整備に補助することにより、低年齢児の入所枠を45人拡大することとしている。</p>								

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部こども未来課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度	
なかよし学級開設時間の延長学級数	5箇所	11箇所	23箇所	23箇所	23箇所	A	
指標の説明	<p>放課後、児童に健全な育成環境と遊びの場を提供するとともに、男女ともに子供を育てながら働き続けられる環境整備が重要です。</p> <p>このため、すべてのなかよし学級（23箇所）で、平日は放課後から午後5時、夏休みなどの長期休暇期間中は午前8時30分から午後5時としている開設時間を、いずれも午後6時まで延長することを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成24年度当初より23箇所すべてのなかよし学級で午後6時までの時間延長を開始したが、平成25年度も引き続き午後6時までの開設時間の延長を実施することにより、5時以降も学童保育を希望する保護者のニーズに答えることができた。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成24年度当初より23箇所すべてのなかよし学級で午後6時までの時間延長を実施できたことにより、平成24年度で目標値を達成した。</p>							

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部こども未来課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
なかよし学級の待機児童数		100人	122人	85人	39人	0人	C	
指 標 の 説 明		<p>なかよし学級は、市内のすべての小学校に設置されていますが、入級希望者の増加とともに待機児童数も増えています。</p> <p>このため、市内の民間の幼稚園や保育園等に待機児童の受入を依頼するなど新たな運営形態の整備により、待機児童の解消を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>市内で放課後及び長期休暇機関に児童を預かる「放課後児童クラブ」を実施する民間の幼稚園や保育園等の8施設に対して運営費を助成することにより、なかよし学級に入級できない待機児童の受け皿としての環境整備に努めた結果、年々、年度当初におけるなかよし学級の待機児童が減少することとなった。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成26年度以降、既存の施設のほかに、市内で「放課後児童クラブ」を新たに開設しようとする民間事業者に対しても運営費を助成することにより、市内において「放課後児童クラブ」を実施する施設数の増加を促し、現在、市内で偏在するなかよし学級の待機児童の解消を図るための受け入れ環境の整備・充実を図っていく。</p>								

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課				
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
介護予防のための生活機能評価をした人の割合	80.0% (22.12.31現在)	78.0%	87.2%	70.8%	85.0%	D
指標の説明	<p>介護予防のための生活機能評価は、二次予防（要介護状態等となるおそれの高い状態にあると認められる高齢者を早期に発見し、早期に対応すること）で事業の対象者を把握するためのチェックリストです。各包括支援センター職員が生活機能評価の実施を図ることによって、年間1ポイントの上昇を目標とします。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成25年度は、平成24年度と調査対象者を変更して65歳以上の認定のない者、要支援1、2の者及び要介護1、2の者に介護予防のための生活機能評価（チェックリスト）を含む日常生活圏域ニーズ調査を実施したため、70.8%の回収率となった。</p> <p>※平成24年度は新たに65歳を迎えた者及び平成23年度の日常生活圏域ニーズ調査の未回収の者を調査対象者とした。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成26年度中に新たに65歳を迎える者に生活機能評価を実施する予定である。</p> <p>調査対象者等が毎年度変更となることから、数値目標の指標として適当か検討する必要がある。</p>						

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
介護予防・通所型運動機能 向上事業の利用者数		360人 (22.12.31現在)	403人	476人	790人	460人	A	
指 標 の 説 明		<p>生活機能の低下を防止し、高齢期を元気に過ごすためにフィットネスクラブなどで実施する「通所型運動機能向上事業（がいなみっく予防トレーニング）」の年間利用者数です。</p> <p>介護予防健診で介護予防の必要な人を的確に把握し、利用促進を図ることによって、年間20人の増加を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>介護予防の啓発活動に伴い、高齢者の健康意識が高まってきている。そのため、高齢者が日常の運動の習慣づくりの第1歩として、本事業が良い機会となっており新規利用者が増加しているものと考えられる。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>介護認定のない高齢者が、今後も出来る限り自立した生活を送るために、元気なうちから自身の健康づくりに努めるよう啓発していく。また、今後、更に高齢者が増加していく中、本事業の利用者も増加することが予想される。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
地域健康づくりサポーターの人数		150人 (22.12.31現在)	250人	248人	346人	300人	A	
指 標 の 説 明		<p>「よな GO!GO!体操」の普及や地域で健康づくり活動を実践する「健康づくりサポーター」を、包括圏域ごとに10名程度増やしていくことを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>各地域のイベントで「よな GO!GO!体操」の普及促進を行ったり、地域で集まって運動やレクリエーション、座談会などを定期的に行い、介護予防・健康づくりに取り組んでいる。引き続き、「いきいきサロン」、「やって未来や塾」等での地域活動において運動を継続している状況である。</p> <p>地域サポーター新規登録者は、サポーター同士の声かけにより若干名あるものの、既存のサポーターの高年齢化や家族介護等の理由により、辞退する者も年々出ている傾向である。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>保健推進員との連携や地域サポーターが、知り合いなどに活動について普及していくことで増員につながる。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
介護保険の居宅介護サービス利用率	78.6% (22.3.31現在)	79.4%	80.5%	80.4%	80.0%	A	
指 標 の 説 明	<p>介護サービス利用者全体に占める居宅介護サービス利用者の割合です。</p> <p>介護が必要になっても、住み慣れた地域で、できるだけ自立した生活を継続することができるよう、居宅介護サービスの充実を図ることによって、80%を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、入所系施設の整備は抑制する一方、在宅型の地域密着型サービスである複合型サービス事業所を新たに4事業所指定し、在宅サービスの充実を図りましたが、介護付有料老人ホーム等が増加したことによって、居宅介護サービスの割合は前年より僅かに低下した。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も入所系施設の整備は抑制するとともに、平成27年度からの第6期介護保険事業計画期間以降では、在宅型の地域密着型サービスである小規模多機能型居宅介護事業所、複合型サービス事業所の整備に努め、在宅サービスの充実を図ることにより、居宅介護サービスの割合を高めることを目標とする。</p>							

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
地域包括支援センター相談件数		33,000 件 (22.3.31現在)	39,497 件	41,943 件	43,058 件	45,500 件	B	
指 標 の 説 明		<p>高齢者の在宅生活を支援するための総合相談機関である地域包括支援センターへの住民からの年間相談件数を表します。</p> <p>高齢化の進行に伴い、更なる潜在的なニーズの増加が見込まれることから、ひと月あたり100件程度の増加を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>民生委員定例会などへの参加や広報誌、配布物などで包括支援センターの周知を積極的に行い、地域における高齢者の相談窓口として認知度が高まってきた。また、介護予防講座の実施等、地域活動への積極的な参加により、市民からも包括支援センターが身近な存在となった。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>生活圏域ニーズ調査などを利用し、平成24年度から高齢者宅へ訪問し、訪問相談を実施している。これにより、地域包括支援センターを認知していなかった高齢者や、敷居が高いと感じていた高齢者からの相談機会が増加するとともに、相談も受け付け易くなることになる。</p> <p>また、広報紙や市ホームページ等において、継続的に役割をアナウンスしていくとともに、毎年実施する高齢者実態調査時に併せて地域包括支援センターの周知を行うこととする。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
物忘れ検査を受けた人の数	700人 (22.3.31現在)	769人	1,316人	2,065人	2,200人	B	
指 標 の 説 明	<p>介護予防のための生活機能評価で認知症の症状があるとされた人を対象に地域包括支援センターが実施する「物忘れ検査」を受けた人の数です。</p> <p>各地域包括支援センターが訪問等を行い、ひと月あたり30人の増加を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>タッチパネル物忘れ検査625人、生活支援アンケート124人、合計749人に物忘れ検査を実施した。</p> <p>累積で2,065人となった。地域包括支援センターの職員の訪問等により認知症の早期発見に取り組んだ。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>認知症の早期発見のために年に1度は、高齢者の集いやサロンやイベント時に物忘れ診断プログラム（タッチパネルスクリーニング）をするように啓発していき、実施を促していく。また、高齢者と暮らしている家族の方に生活支援アンケートを活用してもらい認知症の早期発見に取り組んでいきたい。</p>							

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		福祉保健部長寿社会課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23 年度 実 績 値	H24 年度 実 績 値	H25 年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
認知症サポーターの登録者数		2,000 人 (22.12.31 現在)	3,888 人 (24.3.31 現在)	6,957 人 (25.3.31 現在)	8,956 人 (26.3.31 現在)	7,000 人	A	
指 標 の 説 明		<p>それぞれの地域で、認知症を理解し、自分でできる範囲で支援活動を行う「認知症サポーター」の延べ登録者数です。</p> <p>認知症高齢者を支えていく身近な環境づくりを進めるため、1,000人ずつ増やしていくことを目標とします。</p>						
<p>【25 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成 25 年度中の認知症サポーター養成講座の実施回数は 47 回、受講者数は 1,999 人であった。</p> <p>教育機関での実施は、小学校で 12 回、中学校で 1 回、高校で 1 回、専門学校で 1 回であった。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>“認知症になっても安心して暮らせる米子市”を目指して、今後も継続して地域・学校・職場での「認知症サポーター養成講座」を実施していく。</p> <p>市広報や市ホームページ等で啓発しながら、推進していく。</p>								

< 目標達成度の区分 >

A = 目標値を達成している

B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		障がい者支援課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
障がい者が暮らしやすく社会参加ができる環境が整っていると感じる市民の割合		19.7% (22.2調査)	-	25.1%	-	25.0%	-	
指 標 の 説 明		<p>障がい者が暮らしやすく、社会参加しやすい環境を、ハード、ソフトの両面から整備していくことが必要とされており、市民の4人に1人が肯定的に評価することを目標とします。</p> <p>【まちづくりに関する市民アンケートの結果】</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>障がいのある方が地域で安心して暮らしていくためには、身近な地域に、なんでも相談できる相談窓口を設置し、その窓口で困りごとをしっかりと受け止め、地域のさまざまなサービス事業所や関係者が連携して必要なサービス提供や解決につなげる仕組みづくりが必要である。そのために、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな相談支援ができるよう、5つの支援センターに相談支援の委託を行っている。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>ボランティア講座やあいサポーター研修をとおして、障がいについての正しい知識や理解を深めるとともに、地域で共に暮らす障がいのある人への心の隔たりを埋めるための広報・啓発活動に取組み、当事者やボランティア、地域組織等の幅広い参加・協力を得ながら、障がいのある人を地域で支えあう市民意識の醸成に努める。</p>								

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課	総務部防災安全課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
自主防災組織の結成率	35%	38%	45%	51%	50%	A
指標の説明	<p>地域住民による「自主防災組織」の結成状況を表します。(自治会加入世帯数に対する自主防災組織の構成世帯数の割合)</p> <p>市域の広範囲にわたって災害が発生した場合、救急、救助、消火などの活動については、地域住民による行動が重要となるため、結成率を50%まで引き上げることを目標とします。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>各地区を回り、自主防災組織結成の呼びかけを行った。</p> <p>防災資機材整備や防災訓練等の実施において補助を行い、ソフト面・ハード面の充実を図った。</p> <p>平成25年度中に新たに25団体が結成し、合計205団体となった。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、各地区を回り、自主防災組織結成の呼びかけを行う。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課	総務部防災安全課				
指 標 名	基 準 値 (H21orH22)	H24 年度 実 績 値	H25 年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度
消防団員数	516 人	517 人	512 人	530 人	D
指 標 の 説 明	消防体制の充実・強化を図るため、条例で定めた消防団員の定員を充足させる必要があることから、消防団員の14人増を目標とします。				
<p>【25 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度は退団者が多く4月1日時点では前年比9名減の506人となった。自治会への働きかけや地域のイベントへの消防団としての参加等を通じて分団ごとに様々な取組をおこなったものの、高齢者を中心に3名の減員となった。 ・発足8年目の女性分団において、全市的にPR強化を図るため、地区または、団体からの要請に応じ積極的な予防講習等を行った。 ・春と秋の火災予防運動期間中に、各消防団が注意喚起をうながすため、消防車両等を活用した夜回りなどの活動をおこない、地域防災の要としてその存在をアピールするとともに、住民の不安払拭に貢献した。 					
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>団員数が伸び悩んでいるため、地域ごとに効果的な勧誘方法を検討する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自治会へのかかわりや自主防災組織との連携をすすめることによる消防団の重要性の認識をたかめること 2 女性消防団の地域での防火教室の実施や救命救急活動を推進することによる消防団活動全体の認知度及び信頼の向上 					

<目標達成度の区分>

A＝目標値を達成している

B＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D＝基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		総務部防災安全課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
公共避難施設（昭和56年以前に建築）の耐震調査実施率		93%	93%	93%	93%	100%	C	
指 標 の 説 明		<p>公共避難施設として使用される公共建築物のうち、昭和56年の耐震設計基準改正以前に建築されたものの耐震調査実施状況を表します。</p> <p>災害発生時には公共施設を避難所として使用するため、これらの安全を確保する必要があることから、すべての対象施設の調査を行うことを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成25年度中の耐震調査の実績はない。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>各施設担当課において、順次調査していく。</p> <p>（現在の進捗状況 57 / 61）</p>								

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

1 『ひと』がいきいき

担当課		総務部防災安全課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
交通事故発生件数		539件 (H22.1～ H22.12)	514件 (H23.1～ H23.12)	427件 (H24.1～ H24.12)	445件 (H25.1～ H25.12)	512件	A	
指 標 の 説 明		交通安全施設の整備や交通安全意識の高揚、交通安全教育の推進など交通安全対策に努め、交通事故の発生件数を5%減らすことを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>交通安全教育と啓発活動の推進については、地域社会全体で取り組まなければならない課題であり、市民、行政、警察その他関係機関及び団体が連携、協力しながら交通安全運動をはじめとする様々な活動を行った。</p> <p>交通安全施設の整備及び交通規制については、地域住民の要望を受け、米子警察署、道路管理者及び交通ボランティア等と協議しながら、効果的な事業実施に努めた。</p> <p>また、交通事故における被害者の経済的負担の軽減と救済を図るため、交通災害共済事業への加入促進に努めた。</p> <p>交通事故の発生件数は、順調に減少を続けていたが、残念ながら昨年度は増加してしまったため、再度減少に転じるように更なる活動を行っていく必要がある。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>「交通安全の環境づくり」に向けた取り組みについては、全体的には概ね計画どおり順調に進捗したといえる。</p> <p>交通安全対策は、「くるま社会」の進展、高齢化社会の進行、経済活動の活発化など道路交通を取り巻く情勢の変化が進む現代において、強力に推進する必要があるため、今後も、啓発活動及び広報活動を継続的に実施し、市民の交通安全に対する意識の高揚を図ることによって、更なる交通事故の減少につなげていく必要がある。</p>								

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

2 『こころ』がいきいき

担当課		人権政策局人権政策課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
身の回りで人権が尊重されていると思う市民の割合		54.8% (22.2調査)	-	57.1%		60%		
指 標 の 説 明		<p>「米子市人権施策基本方針」、「米子市人権施策推進プラン」などに基づき、あらゆる差別や人権侵害などをなくし、平和ですべての人が幸せに生きる社会の実現に向けた取組みを推進することによって、現状より5ポイント増えることを目標とします。</p> <p>【まちづくりに関する市民アンケートの結果】</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>人権施策基本方針・推進プラン及び人権教育基本方針・推進プランに基づき、家庭、学校、地域、職場などで、人権尊重の視点から人権に対する正しい理解と認識を深めるため、人権教育・啓発に取り組んだ。</p> <p>また平成24年度に実施した人権問題市民意識調査の結果について、報告書を作成して関係機関に配布した他、市のホームページや市報、啓発誌などに掲載したり、市の研究集会や小地域懇談会等さまざまな機会をとらえて市民に周知を図りながら、市民に正しい認識をもってもらうよう推進した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>人権施策基本方針・推進プラン及び人権教育基本方針・推進プランに基づき引き続き、家庭、学校、地域、職場などで、人権教育・啓発を推進する。</p> <p>平成23年度から採用したワークショップ形式(体験的参加型)の学習手法が、市民の参加しやすい手法として多くの地域の小地域懇談会で取り組まれており、今後も同様に市民の参加しやすい学習手法の開発に向けて検討していく。</p>								

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

2 『こころ』がいきいき

担当課	男女共同参画推進課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
男女が平等に生活していく社会づくりがすすんできていると思う割合	50.7%	-	45.7%		60.0%	
指標の説明	男女共同参画社会がどれくらい進んだかを示し、市民の60%が進んだと感じられることを目標にします。 【まちづくりに関する市民アンケートの結果】					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次男女共同参画推進計画に基づく進行管理を着実にを行った。 ・男女共同参画週間事業（映画上映会）、男女共同参画講座（しゃべって未来や）、女性のパワーアップ講座などの事業を実施し、市民に男女共同参画の意識啓発をした。 ・米子市男女共同参画センターを運営し、利用登録団体の勉強会や、団体・市民との交流会である「かぶりあ祭」を実施した。10周年記念として、藻谷浩介氏による講演会「笑顔が広がるまちづくりの秘訣～米子の未来をつくる男女共同参画～」を開催し、まちづくりに係わる男女共同参画の重要性を広く市民に啓発することができた。その他、登録団体の活動紹介やクイズラリー等で男女共同参画に関する問題を出題し、参加者への意識向上を図った。 ・国・県・関係各課と連携し、ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発を行った。 						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して心豊かに生活できる社会を目指して行く為には、市民に対し普及啓発活動をさらに効果的に実施し、市民意識の向上を図る必要がある。 ・男女共同参画センターを利用した講座等の充実を図り、また利用登録団体の増加に努める。 ・第2次男女共同参画推進計画を周知し着実な進行管理に努める。 						

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

2 『こころ』がいきいき

担当課		男女共同参画推進課					
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標 達成度	
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)		
審議会等委員に占める女性の割合	30.6%	31.4%	30.7%	31.6%	40.0%	C	
指 標 の 説 明	<p>「米子市男女共同参画推進計画」、「米子市審議会等委員選任基準」により、審議会委員等を構成する委員の男女のいずれか一方が40%未満とならないよう定めています。この基準を達成するため、女性委員の登用を積極的に働きかけることによって、40%まで引き上げることを目標としています。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会等委員選定時、所管課において選任基準チェックシートを使用し適合状況を確認している。 ・ 米子市女性人材バンク登録者を積極的に登用するよう所管課に周知啓発している。 ・ 女性人材バンク登録者を対象に「今後の米子市政について『生活充実都市・米子』の実現をめざしたまちづくり」と題して研修会を実施し、人材育成に努めた。 							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の登用率は、なかなか目標率に達していない状況が続いている。目標を達成している審議会もある中、女性登用率が少ない審議会が固定化している状況もあるので、対象の所管課に対して効果的な啓発を行っていききたい。 ・ 女性人材バンクの充実に向け、女性の人材発掘と登録に向けた市民啓発も必要である。 							

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

2 『こころ』がいきいき

担当課		教育委員会生涯学習課				
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23 年度 実 績 値	H24 年度 実 績 値	H25 年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度
図書館の年間個人貸出冊数	37.3万冊 (21.4.1～ 22.3.31)	42.2万冊	21.4万冊	42.4万冊	45万冊	B
指 標 の 説 明	生涯学習や情報提供、さらには子どもの読書を支える拠点としての役割を担う図書館において、多種多様な市民ニーズに応えた図書・資料を提供し、年間貸出冊数を、現状の20%以上増やすことを目標とします。					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組状況)</p> <p>図書館は、増改築工事に伴い平成25年5月19日まで市役所旧庁舎に代替図書館を開館し、その後引越し作業のため約3ヶ月間完全休館し、平成25年8月17日リニューアルオープンした。オープン後、開館時間の延長、新図書館システム、自動貸出機の導入により、図書館利用の利便性向上を図った。また、主催・共催の講演会等も開催した。</p> <p>(成果)</p> <p>多目的スペース、研修室の利用も多く、新たな利用者層の掘り起こしにもつながり、リニューアルオープン以降の個人貸出利用人員、貸出利用冊数ともに旧図書館の1.5倍程度に増加し、完全休館があつたにもかかわらず、平成23年度を超える貸出冊数となった。</p> <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>図書館資料を充実させ、個人及び団体貸出等の市民ニーズに応じるとともに、学校との連携を強化し、学校教育を支援する。主催・共催の講演会等を開催するとともに多目的スペースを利用した展示を行なうなど、図書館利用の拡大を図り、更なる図書貸出の増加を目指す。</p>						

<目標達成度の区分>

- A＝目標値を達成している
- B＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D＝基準値を下回っている。

2 『こころ』がいきいき

担当課		教育委員会体育課					
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標	
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)	達 成 度	
市民が週1回以上、スポーツ活動を行っている割合	48.4% (22.2調査)	—	56.6%		60%		
指 標 の 説 明	<p>心身の健康の保持・増進のため、スポーツ団体等との連携を図りながら、スポーツ活動への意識啓発や気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを推進することによって、10ポイント以上増えることを目標とします。</p> <p>【まちづくりに関する市民アンケートの結果】</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>体育施設の総利用者数 約111万3千人、内、学校開放事業での総利用者数 約53万7千人、市主催大会の開催10種目、市民体育祭8種目の開催のほか、県民スポ・レク祭への参加等々市民が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを推進した。</p> <p>心身の健康の保持・増進のために自宅付近での散歩等軽スポーツを意識して実行している市民が多くなってきた。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>体育施設や学校施設で気軽にスポーツを楽しめる環境を維持し、ニュー・スポーツへの関心を高めることで生涯にわたり体を動かし続ける機運の醸成を図る。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

2 『こころ』がいきいき

担当課	教育委員会文化課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
歴史関係施設の年間利用者数	13,000 人	21,317 人	22,997 人	19,426 人	23,000 人	C
指標の説明	<p>山陰歴史館、福市考古資料館・埋蔵文化財センター、上淀白鳳の丘展示館の入館者数及び講座、講演会などへの参加者数を合算したものである。</p> <p>各施設での常設展示、企画展示や体験学習、出前講座などの活用事業を実施することにより、1万人増やすことを目標としている。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>山陰歴史館においては、一企画展あたりの来館者は増加したが、企画展示の開催数が平成24年度より少なく、企画展来館者が減少し、さらに、常設展示の来館者も減少したため、トータルでの施設利用者は減少した。</p> <p>福市考古資料館・埋蔵文化財センターについては、発掘調査速報展、文化財探訪会、講座、考古学研究のワークショップの開催、夏休み中心にしたなかよし学級への出前講座14回（勾玉づくりなど）等を通して、歴史に触れる機会の増加に努めた結果、施設利用者が増加した。</p> <p>上淀白鳳の丘展示館に関しては、よどえ古代まつり、ミニ企画展、各種イベントの開催などにより来館者の増加を図ったが、来館者数の増加には至っていない。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>山陰歴史館、福市考古資料館・埋蔵文化財センターについては、常設展示、企画展示の充実を図るとともに、ソフト事業のメニュー、レファレンスサービスの充実、事業周知をさらに図るなどきめ細かな対応を行うとともに、ニーズの把握に努め、新たな事業展開に活かすことが必要である。</p> <p>上淀白鳳の丘展示館に関しては、よどえ古代まつり、ミニ企画展、上淀廃寺跡など周辺の文化財の活用したイベントの開催などのソフト事業のさらなる展開を図ることと、妻木晩田遺跡との連携を深め、伯耆古代の丘一帯の活用を図る必要がある。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

3 『ふるさと』がいきいき

担当課		環境政策局環境政策課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
市内一斉清掃の延べ参加人数	77,089 人 (23.1.1現在)	79,057 人	80,193 人	78,508 人	79,000 人	B	
指 標 の 説 明	近年、減少傾向が見られる市内一斉清掃の延べ参加人数について、ボランティア清掃の促進など市民の環境美化意識の高揚を図ることによって、ひとりでも多く増やすことを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成25年度の市内一斉清掃の参加人数が、平成22年度より1,419人(約1.8%)増加した。</p> <p>平成27年度目標値の79,000人に対しては492人下回り、目標を達成していない。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>きれいな住みよいまちづくり活動の一環として、米子市環境をよくする会が主催する市内一斉清掃に地域から多数参加いただくように周知啓発を行い、ボランティア意識の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉清掃実施前に市内の小中学校全校生徒にボランティア袋を配布し周知を図るとともに、各家庭からの積極的な参加を促す ・ 広報よなご、米子市ホームページ等の情報媒体を利用した情報提供、啓発 ・ ごみ情報誌「よなごみ通信」の発行(年1回)による情報提供、啓発 							

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

3 『ふるさと』がいきいき

担当課		環境政策局環境政策課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
環境美化推進区域の指定または区域拡大	1 区域 (23.1.1 現在)	1 区域	2 区域	2 区域	4 区域	B	
指 標 の 説 明	「きれいな住みよいまちづくり」を推進し、環境美化意識の一層の向上を図るため、2年に1区域程度の割合で、環境美化推進区域の新規指定または既存区域の拡大を行うことを目標とします。						
【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】							
1 区域（区域未定）の新規指定に向けた調査を実施した							
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】							
平成26年度 ・ 1 区域（区域未定）新規指定予定 ・ 1 区域（区域未定）新規指定に向けた調査等開始 平成27年度 ・ 1 区域（区域未定）新規指定予定							

< 目標達成度の区分 >

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている

3 『ふるさと』がいきいき

担当課		環境政策局環境政策課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
平成19年度を基準とした ごみの削減率	5.2% (H22.3.31現在)	5.3%	6.3%	7.0%	5.2%	A	
指 標 の 説 明	<p>平成19年度のごみ処理有料化を契機に、ごみの排出量は年々減少しています。</p> <p>今後も、ごみの排出抑制を市民や事業者働きかけ、更なる削減率の向上を目指します。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成24年度に引き続き、生ごみ減量化の取組みとして、生ごみ処理機等の購入費の助成及びダンボール堆肥の講習会、サンプル配布等を実施した。</p> <p>また、10月から、従来の可燃ごみ専用指定袋40ℓ、20ℓ、10ℓ袋に加え、30ℓ袋の販売を開始し、市民のごみ減量に対する意識の向上を図った。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成19年度に実施したごみ有料化の効果を維持するため、次の取組みを実施することにより、更なるごみの減量化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会、リサイクル推進員等と連携した、地域におけるごみの発生・排出抑制の啓発活動の推進 ・ マイバッグ運動の促進、ノーレジ袋デーなどの広報 ・ 生ごみ処理機等の購入費の助成及びダンボール堆肥の普及啓発 ・ ごみ情報誌「よなごみ通信」、「ごみ分別収集カレンダー」等による分別ルールの周知・情報提供・啓発 							

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

3 『ふるさと』がいきいき

担当課		環境政策局環境政策課					
指 標 名	基準値	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	目標達成度	
	H21orH22	実績値	実績値	実績値	(H27)		
ごみのリサイクル率	21.4% (H22.3.31現在)	19.4%	19.1%	19.5%	22.5%	D	
指 標 の 説 明	ごみのリサイクル（再使用及び再生利用）率を今後も維持していくため、分別収集や資源ごみ回収運動などを継続的に推進することによって、現状からさらに1.1ポイント向上することを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>自治会、リサイクル推進員等と連携して、地域における分別指導・啓発によるリサイクルの推進を図った。また、米子市クリーンセンターから発生した溶融スラグの利用率の上昇等の結果、平成25年度は平成24年度と比較して約0.4%上昇したが、平成27年度目標値の22.5%は達成できなかった。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成26年秋から環境省の小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業に取組み、不燃ごみ（不燃性粗大ごみ）からリサイクルへの転換を図る。また、次の取組みを実施することにより、ごみの減量化及びリサイクル率の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ情報誌「よなごみ通信」、「ごみ分別収集カレンダー」等による分別ルールの周知・情報提供・啓発 ・資源ごみ回収運動推進事業（奨励金の交付）の実施・啓発 ・自治会、リサイクル推進員等と連携した、地域における分別指導・啓発 							

< 目標達成度の区分 >

A = 目標値を達成している

B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D = 基準値を下回っている。

3 『ふるさと』がいきいき

担当課		下水道部下水道企画課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
下水道処理人口普及率 (公共下水道事業及び 農業集落排水事業)		73.7% (H23.3.31現在)	74.6%	75.6%	76.4%	78.7%	B	
指 標 の 説 明		<p>本市の行政人口のうち、下水道施設（公共下水道事業及び農業集落排水事業）を使用できるようになった市民の割合を表します。</p> <p>公共下水道の計画的な整備を進めることにより、5.0ポイント増やすことを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共下水道の整備を平成24年度の繰越事業を含め、44.6ha（ヘクタール）の地区を整備した。 公共下水道事業のさらなる進捗を図るため、順次整備を進める予定としている。 								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間50～60haの公共下水道整備を計画的に進め、下水道処理人口普及率の更なる向上に努める。 								

<目標達成度の区分>

A＝目標値を達成している

B＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D＝基準値を下回っている。

3 『ふるさと』がいいき

担当課		下水道部下水道営業課						
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度		
水洗化率	84.6% (22.3.31現在)	86.7%	87.3%	87.3%	86%	A		
指 標 の 説 明	<p>汚水処理施設が使えるようになった市民のうち、水洗便所に改造し、汚水処理施設に接続した市民の割合を表します。</p> <p>市民への普及活動を推進し、毎年0.3ポイント増やすことを目標とします。</p>							
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>「水洗化普及計画」に基づき、市報、市ホームページ並びに下水道の日にちなんだイベント等による下水道の広報啓発や工事説明会、戸別訪問時に水洗化の接続指導と並行して排水設備工事融資あっせん制度の周知を図った。</p> <p>また、市外の家屋所有者に対する郵送による接続指導等を実施するとともに、未接続理由等の調査を行ない、未接続台帳を整備した結果、水洗化率は前年度並みとし、目標は達成した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>市報や市ホームページ等を積極的に活用した広報啓発と未接続台帳の整備を定期的に行なうとともに、新規供用開始区域への普及活動を迅速に行ない、既存の未接続家屋に対しては、今後も継続的かつきめ細やかな接続指導を計画的・効率的に実施していく。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課	経済部農林課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
多様な担い手の数	113 経営体	117 経営体	115 経営体	125 経営体	133 経営体	B
指標の説明	農業の発展のため法人・大規模農家・認定農業者・新規参入者・集落営農組織など多様な担い手を育成する必要があることから、毎年4経営体ずつ増やすことを目標とします。					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>認定農業者の更新の支援や新規認定の相談対応、新規就農の支援等に取り組んだ結果、更新者の減少が抑えられたため昨年より微増ではあるが増えることとなった。</p> <p>新規就農者については、関係機関との連携した取組や支援事業の実施により大幅に増加した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>認定農業者の更新支援や新規認定・集落営農・法人化等の相談に対し、引き続き関係機関と連携して対応する。また、新規就農者の認定や企業参入の受入れを推進する。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課	経済部農林課													
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度								
耕作放棄地解消面積	- ha	8.19ha	10.01ha	17.78ha	25ha (累計)	B								
指標の説明	農地の保全と農業の持続性を図るため、耕作放棄地の削減に努める必要があることから、毎年5haの解消を目標とします。													
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市耕作放棄地再生利用対策事業を実施し、平成25年度に約7.77haの遊休農地を解消した。</p> <p>また、弓浜6地区の遊休農地対策協議会に対し会議費等を補助し、耕作放棄地解消に向けた検討を実施した。</p> <p>解消面積</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>8.19ha</td> <td>1.82ha</td> <td>7.77ha</td> <td>17.78ha</td> </tr> </table>							H23	H24	H25	計	8.19ha	1.82ha	7.77ha	17.78ha
H23	H24	H25	計											
8.19ha	1.82ha	7.77ha	17.78ha											
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も関係機関と連携し、新規就農者や新規参入企業、規模拡大を目指す農業者等に対し、耕作放棄地の利用調整を積極的に実施するとともに、米子市耕作放棄地再生利用対策事業等を実施し、耕作放棄地の解消促進を図る。また、耕作放棄地の有効利用の方策を米子市遊休農地対策協議会、米子地域耕作放棄地対策協議会等において検討する。</p>														

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課	経済部農林課																										
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度																					
農地の流動化面積	401ha	461ha	491ha	532ha	580ha	B																					
指標の説明	<p>担い手農家の規模拡大や農地の有効利用のため、農地の流動化を推進することにより、毎年30ha増やすことを目標とします。</p> <p>※ 流動化面積… 農地の売買・賃借等で権利異動した面積を表します。</p>																										
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成25年12月31日現在、流動化面積</p> <table border="0"> <tr> <td>新規</td> <td>704件</td> <td>1,939筆</td> <td>224ha</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再設定</td> <td>895件</td> <td>1,924筆</td> <td>267ha</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>転貸</td> <td>93件</td> <td>278筆</td> <td>39ha</td> <td>合計532ha</td> <td>(41ha増)</td> <td></td> </tr> </table>							新規	704件	1,939筆	224ha				再設定	895件	1,924筆	267ha				転貸	93件	278筆	39ha	合計532ha	(41ha増)	
新規	704件	1,939筆	224ha																								
再設定	895件	1,924筆	267ha																								
転貸	93件	278筆	39ha	合計532ha	(41ha増)																						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も引き続き、利用権設定促進事業や農用地利用集積円滑化事業また26年度より新たに行われる農地中間管理事業により農地の利用集積を推進する。また、担い手規模拡大促進事業等により認定農業者等の担い手に対し助成を行い目標の達成を目指す。</p>																											

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部商工課					
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標	
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)	達 成 度	
中心市街地商店街空き店舗 への出店数	-	7店舗	17店舗	23店舗	25店舗 (累計)	B	
指 標 の 説 明	空き店舗に出店する事業者等への支援、新規商業参入者の支援を行うことにより、年間5店舗の出店を目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>「にぎわいのある商店街づくり事業補助金」制度を利用して、喫茶店等5店、「新規商業参入支援事業」により1店、計6店の出店があった。</p> <p>平成24年度 17店舗（累計）</p> <p>平成25年度 6店舗 合計 23店舗</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、補助制度の周知に努めるとともに、商店街連合会、米子商工会議所などの関係団体と連携し、出店を希望するものに対して助言を行って出店しやすい環境整備に努め、目標値を上回ることを目標とする。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいいき

担当課	経済部商工課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
工場等の新增設件数	－	3件	5件	7件	5件 (累計)	A
指標の説明	産業構造の高度化及び雇用機会の拡大を図るため、地元企業の工場等の新增設に伴う設備投資や新規雇用への支援を行うもので、年間1件の新增設を目標とする。					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市企業立地促進補助金、米子市企業立地促進資金融資制度の活用により2件の増設があり、それに伴って27人の新規雇用が見込まれる。</p> <p>平成23年度 3件 平成24年度 2件 平成25年度 2件</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>補助制度の活用を周知するため、商工団体及び工業団地組合への周知に加え、市のホームページ及び県の企業支援サイトへの掲載等によるPRを行っている。</p> <p>また新增設についての相談や情報があれば、直接その企業へ補助制度の活用についての説明を行うとともに、必要に応じて新增設にあたって、関係機関との調整など側面的支援を行って、新增設を支援している。</p>						

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいいき

担当課		企画部地域政策課				
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23 年度 実 績 値	H24 年度 実 績 値	H25 年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度
中心市街地の歩行者・自転車通行量	23,275 人 (21.11 調査)	18,311 人	19,175 人	18,744 人	24,462 人	D
指 標 の 説 明	<p>中心市街地に、どの程度にぎわいがあるのかを、調査地点19箇所における歩行者・自転車通行者数の11月の休日と平日の合算値(2日分)で表します。</p> <p>中心市街地活性化基本計画に基づき、5.1%増を目標とします。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>中心市街地活性化基本計画に基づき活性化を推進するため、官民が連携して取り組んできた。行政事業としては、図書館・美術館の改修、空き店舗に出店する事業者へ助成(5店舗の新規出店)、チャレンジショップの実施(新規入店2店舗、継続1店舗)、旧加茂川・寺町周辺街なみ環境整備事業による家屋修景、まちなかの案内看板設置、プロガーを活用したまちなか情報や中心市街地のイベントなどの情報発信に取り組んだ。また、平成26年3月には公会堂の改修工事が完了した。民間事業では、笑い通りのアーケード撤去、にぎわい市・戸板市等の開催(全11回)などに取組むと共に、基本計画に掲げる事業の推進を契機に賑わい創出のイベント等が発展的・継続的に実施された。その結果、中心商店街のエリアを中心市来街者が回遊できる拠点整備され、商店街全体のつながりが感じられるようになり、減少傾向に歯止めがかかりつつある。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年11月から取り組んできた、中心市街地活性化基本計画の計画期間が平成25年度末で終了したことから、現在、2期の活性化基本計画を策定中。今後は、1期で整備した公共の施設や民間の商業拠点等との連携を図り、まちなかの賑わいを高めていく。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		企画部地域政策課				
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)	達 成 度
中心市街地の居住人口	11,454 人 (22.4.1現在)	11,342 人	11,179 人	11,069 人	11,546 人	D
指 標 の 説 明	<p>中心市街地が暮らしやすいまちになっているかどうかを、居住する人の数で表します。</p> <p>中心市街地活性化基本計画に基づき、0.8%増を目標とします。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>中心市街地活性化基本計画に基づき、行政では、市外からの移住誘導策としてのまちなか居住支援事業（新規1件）、空き家の情報発信、歩道のバリアフリー化など取組むとともに、民間では、高齢者向け住宅（57戸）が完成するとともに生活支援サービス実施などに取り組んできた結果、平成23年度～平成24年度と比べれば減少幅は小さくなったものの減少傾向に歯止めがかかっていない。</p> <p>しかし、近年の人口の社会増減をみると転入・転出がほぼ同数であったが、平成25年度は社会増に転じるなど、一定の効果が現れ始めている。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年11月から取り組んできた、中心市街地活性化基本計画の計画期間が平成25年度末で終了したことから、現在、2期の活性化基本計画を策定中。引き続き、まちなか居住を促進していくため、官民が連携して住宅建設の促進や空き家の活用を図っていく。また、医療、福祉、雇用対策などを総合的・一体的に取り組む、中心市街地の利便性を発信していく。</p>						

<目標達成度の区分>

- A＝目標値を達成している
- B＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D＝基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部経済戦略課					
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標	
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)	達 成 度	
地元企業の産学金官連携事業の数	17件 (22.3.31 現在)	20件	23件	25件	27件 (累計)	B	
指 標 の 説 明	財団法人鳥取県産業振興機構との連携によって、産・学・金・官連携事業の推進に取り組んでおり、新規連携事業を、年間2件程度増やすことを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県、鳥取県産業振興機構、鳥取県産業技術センター、鳥取大学、米子高専等と連携し、「とっとりバイオフロンティア」の活動、運営等が円滑に行えるよう積極的に協力し、新産業創出や市内産業の高付加価値化を目指すとともに、鳥取大学産学・地域連携推進室西部連携会等に参加し、情報交換や意見交換を深めることにより、地元企業の産学金官連携事業の推進を行った。</p> <p>鳥取県産業振興機構連携創出新規事業件数 2件</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>鳥取大学産学・地域連携推進室西部連携会等に参加し、情報交換・意見交換を行うと共に、鳥取県産業振興機構配置専任職員を中心に地元企業や関係機関との連携を密にし、産学金官連携による新規事業の創出を図る。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部経済戦略課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
とっとりバイオフロンティア入居企業数		－	3社	3社	4社	4社	A	
指 標 の 説 明		とっとりバイオフロンティア実験室入居企業として、バイオテクノロジー関連企業を、4社誘致することを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>とっとりバイオフロンティアに専任職員1名を設置し、事業推進を図るとともに、事業運営委員会、管理・事務部会、研究・企画部会等に参画し、鳥取県、鳥取大学、鳥取県産業振興機構等と連携し事業の円滑な推進を図った。</p> <p>とっとりバイオフロンティア実験室入居数 4社</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県、鳥取大学、鳥取県産業振興機構等と連携を図り、事業進捗による成果をもとに関連企業へ入居促進を働きかけ、実験室入居企業4社の維持を目標に推進していく。また、鳥取大学や入居企業と繋がりのあるバイオテクノロジー関連企業を中心に情報収集等を行い、企業誘致に繋げていく。</p>								

<目標達成度の区分>

- A＝目標値を達成している
- B＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D＝基準値を下回っている。

4 『あした』がいいき

担当課		経済部経済戦略課					
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標	
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)	達 成 度	
新規農商工連携・6次産業化取組み件数	-	2件	5件	7件	10件 (累計)	B	
指 標 の 説 明	<p>農業者等自らが加工・製造・流通・販売まで主体的に取り組む6次産業化や農林水産業と商業・工業が連携して商品開発等に取り組む農商工連携による新たな事業への取組み（補助制度を活用するもの）が、年間2件程度行われることを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>新規取組事業者に対し、6次産業化（農商工連携）推進プラン作成のサポートと審査会で認定されたプランの実施事業者に対し、事業計画の実現を支援するため6次産業化推進事業補助金を交付し、農商工連携・6次産業化の推進を図った。</p> <p>6次産業化推進事業補助金新規交付件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家に取り組む6次産業化推進事業 2件 							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>6次産業化又は農商工連携による取組に対して支援することにより、元気な農林漁業者等を育成し、地域における農林水産業の振興及び地域経済の活性化を図るため、年間2件以上の新規取組みを目標に推進する。</p>							

<目標達成度の区分>

- A＝目標値を達成している
- B＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取組みを強化していく必要がある
- D＝基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部観光課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数		139.7万 人 <small>(22.3.31現在)</small>	163.9万 人	178.6万 人	153.6万 人	150万人	A	
指 標 の 説 明		<p>鳥取県観光客入込動態調査に基づく米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数。</p> <p>広域観光の推進や皆生温泉の観光的魅力の情報発信の充実などにより、過去10年間の最高値と同レベルまで回復することを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>県境を越えた連携で観光振興を図るため、二次交通のガイドブック、着地型のガイドブック、共同周遊マップ作成などの事業を実施するとともに、中海・宍道湖・大山圏域では、ポータルサイトの運営のほか、皆生温泉においてもエコツーリズムに取り組み、ホームページによる情報発信を実施した。</p> <p>皆生温泉の活性化事業として、「皆生温泉にぎわい創出事業」を実施し、観光協会の助成事業では、各種誘致活動、共同宣伝、各種イベントを開催した。</p> <p>成果</p> <p>平成25年米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数（平成25年1月～12月実績）は、前年に比べ25万人減少したものの、出雲大社の平成の大遷宮の影響で、宿泊者数は大幅に伸びた。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、圏域の連携をさらに深め、皆生温泉、米子駅前を広域観光の滞在拠点として、滞在型観光を推進する。そのために、大山、皆生の自然を利用したエコツーリズムの推進、にぎわい創出事業を中心に皆生温泉の活性化を図るとともに、米子市観光協会の各種事業の助成を行い、エージェントへのプロモーション、着地型メニューの開発支援等を行う。</p> <p>また、米子がいな祭等イベントを実施し、交流人口の増大を図るとともに、山陰国際観光協議会において、米子ソウル便の利用促進等を図りながら、外国人の誘客に努める。</p>								

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部観光課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度	
皆生温泉宿泊者数 (入湯税対象者数)	43万人 (22.3.31現在)	43.5万人	40万人	47.5万人	50万人	B	
指標の説明	<p>宿泊者数は平成9年をピークにして減少し続けており、平成14年から50万人を下回る状態が続いています。観光客誘致を促進する取り組みにより、50万人の状態に回復することを目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>皆生温泉では、官民が一緒になり、皆生温泉の街づくりアドバイザーの堀繁東京大学教授の理論に基づく米子市観光センター周辺を市民や観光客の滞留拠点とする街づくりを進めており、現在までに、「潮風の足湯」整備、「素鳳ふるさと館」のリニューアル、「皆生横丁きないや」や「手しごとギャラリーkaike」の開設など、まち歩き拠点の整備を実施した。また、皆生温泉にぎわい創出事業では、重点的に皆生温泉の宣伝PR、イベント開催をするとともに、ホームページによる情報発信を推進し、観光協会の助成事業では、各種誘致活動、共同宣伝、各種イベントを開催した。</p> <p>成果</p> <p>出雲大社の大遷宮、鳥取自動車道・松江自動車の開通に加え、官民で取り組んでいる山陽・四国・近畿に向けた「皆生温泉においしく泊まろうキャンペーン」や中京圏域での各種プロモーション活動の効果が相乗的に現れたため、平成25年の皆生温泉宿泊者数は、474,858人（対前年比118.74%）であった。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>選ばれる温泉地、温泉文化を愉しむ風情ある温泉地を目指して、鳥取県が創設した「温泉地を愉しむ空間創出プロジェクト事業」の活用に向けて、地元関係者で構成する「皆生温泉を考える会」において協議を進めており、引き続き皆生温泉の活性化に向けて取り組んでいく。</p> <p>また、目標の達成を目指して、引き続き皆生温泉にぎわい創出事業の支援を重点的に行う。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部観光課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23 年度 実 績 値	H24 年度 実 績 値	H25 年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
淀江地区の観光施設、歴史文化施設の入込み客数		42.8 万人 (22.3.31 現在)	37.6 万人	36.2 万人	32.1 万人	52 万人	D	
指 標 の 説 明		淀江地区への観光客の誘客を促進することにより、淀江ゆめ温泉、伯耆古代の丘公園、上淀白鳳の丘展示館、どんぐり村、むきばんだ史跡公園への延べ入込み客数を、約20%増やすことを目標とします。						
<p>【25 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>観光施設、文化施設、産業団体等で連携し、実行委員会を組織し、イベント事業等を開催することにより、地域の資源のPRに努め、誘客の増加策を図った。</p> <p>新たに、むきばんだ史跡公園等と連携し、「よどえ道草日和」を実施し、緊急雇用事業において、淀江地域の魅力発信の冊子を作製した。</p> <p>また、インターネット（SNS）を利用して情報発信を開始した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>観光施設と文化施設とが一体となって、相互に協力、補完したイベント等を開催するなど、淀江地区の魅力をさらに拡充して誘客活動を実施する。</p> <p>農林水産物を活用した加工品の商品開発を支援し、引き続き、インターネット（SNS）等を利用してPR活動に努める。</p>								

< 目標達成度の区分 >

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部経済戦略課					
指 標 名	基 準 値	H23年度	H24年度	H25年度	目 標 値	目 標	
	H21orH22	実 績 値	実 績 値	実 績 値	(H27)	達 成 度	
米子流通業務団地企業進出率	79.6%	83.9%	92.3%	95.7%	100%	B	
指 標 の 説 明	流通業務団地整備事業経営健全化計画において平成26年度末までに進出率100%とすることを目標としていることから、毎年約1ヘクタール（約4%）ずつの企業進出を目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組み状況)</p> <p>運送業等の流通関連業種、金融機関、ゼネコン等への営業活動を行い企業立地促進に努めた。</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3区画（1社・1団体）を分譲した。 							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き営業活動を行い、企業立地促進に努める。</p> <p>現在商談中の区画については、企業進出の実現に向けて、企業と交渉を続ける。</p>							

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部経済戦略課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
崎津がいなタウン企業等進出数		1件	1件	2件	2件	3件	B	
指 標 の 説 明		崎津がいなタウンの利活用を推進するため、新たに2件の企業を誘致することを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>(取組み状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県と連携して進出可能性のある企業へ訪問し、積極的な企業誘致活動を実施した。 								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>企業誘致を実現するため、引き続き誘致活動を実施する。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		経済部経済戦略課					
指 標 名	基準値	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	目標	
	H21orH22	実績値	実績値	実績値	(H27)	達成度	
誘致企業数	16 企業	19 企業	24 企業	26 企業	21 企業	A	
指 標 の 説 明	<p>本市がこれまでに誘致した企業の総数です。</p> <p>地域経済への波及効果が期待できることから、積極的な誘致活動を行うことにより、毎年1社の誘致を目標とします。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県と連携し、市関西事務所等も活用しながら、進出可能性のある企業へ訪問し、用地や支援制度等の情報提供をするなど、積極的な企業誘致活動を実施した。</p> <p>(成果)</p> <p>平成25年度進出企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ W E L L C O M(株) ・ (株)テムザック 							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>引き続き製造業を中心とした、地域経済への波及効果の期待できる企業及び大量雇用が期待できる事務処理系企業について、年間1社の誘致を目標として、積極的な誘致活動を実施する。</p> <p>(事業計画等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な企業訪問の実施 ・ 市関西事務所及びふるさと経済活性化委員会の活用による情報収集及びPR。 ・ 企業立地促進補助金等の優遇助成制度の積極的な活用 							

<目標達成度の区分>

A=目標値を達成している

B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D=基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課	建設部土木課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
幹線市道の整備延長	m 123,636	m 123,636	m 123,676	m 123,676	m 125,518	B
指標の説明	幹線市道のうち、計画期間内に皆生温泉環状線（3工区）ほか4路線を整備することを目標とします。					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>○皆生温泉環状線（3工区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物件移転補償 N=1件 ・ 用地買収 A=196.11㎡ 						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>皆生温泉環状線（3工区）は、平成27年度完成を目指します。和田浜団地大篠津西2号線、大篠津西10号線は、都市計画道路葭津和田町線の開通に合わせた完成を目指します。安倍三柳線は、平成27年度より用地買収にかかり、早期完成を目指します。これらの市民生活の基礎となる幹線道路を整備することにより市民生活及び経済活動の向上を目指します。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課		企画部地域政策課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23 年度 実 績 値	H24 年度 実 績 値	H25 年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
米子空港搭乗者数	44 万人 (21 年度実績)	42.8 万人	47.3 万人	63.9 万人	50 万人	A	
指 標 の 説 明	<p>空港の利用促進を強化することにより、毎年1万人増やすことを目標とします。</p>						
<p>【25 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>県や関係団体等と連携して、米子空港利用促進懇話会で各種キャンペーンや旅行商品等の開発・観光PR活動及び国際線チャーター便の運行支援、時刻表の作成・配布等の広報活動を展開してきた。</p> <p>平成25年度は、出雲大社の「平成の大遷宮」に伴う山陰への観光客の増加や全日空東京便の10月以降の1日6往復化、大型機の一部導入（6月～10月）併せてスカイマークが12月から成田、神戸、茨城便の3路線を新たに就航させたことにより、昨年度に比較して大きく利用者が伸びた。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成26年度は、既存路線に加え、スカイマークが4月から新規路線として那覇、札幌（新千歳）、羽田便を就航させたことなど米子空港の利便性は格段に向上している。</p> <p>羽田、成田、神戸、茨城に加え、沖縄や北海道の利用者が見込めることから、米子空港の新たな利用者は増えるものと考えられるが、昨年出雲大社の大遷宮のような山陰での長期的な大イベント等が見当たらないことや、官民挙げての利用キャンペーン等を行ったものの米子ソウル便の利用者は減少していることなどから、これまで以上に米子空港利用促進懇話会、観光振興団体、県及び各自治体などとの連携を深め効果的な利用促進策を推進する。</p>							

< 目標達成度の区分 >

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課	経済部観光課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
コンベンション の誘致件数	58件	85件	100件	136件	77件	A
指標の説明	<p>各種コンベンションの開催により、大きな経済波及効果が期待できるため、誘致活動の支援等を図ります。</p> <p>過去5年間（平成17年度～21年度）の平均値を基準値とし、その間の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>コンベンション主催者へ開催支援し、コンベンションの誘致活動、広報宣伝のために、コンベンションビューローの運営に対して運営費負担金を支出するとともに、コンベンション誘致会議に参加し、誘致活動を支援した。</p> <p>また、平成21年9月より米子駅前簡易駐車場の入退場をゲートバー式に改め、目的外利用の車両を排除してコンベンションセンター用の無料駐車場を確保したことにより、駐車場の利用率が向上した。その他、飲食店マップの作成、配布及び観光パンフレットの提供など開催、誘致支援を行った。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、補助対象とならないコンベンションの誘致も多く、継続した誘致活動が重要であるので、引き続き、公益財団法人とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行う。</p> <p>また、米子国際会議場の管理、コンベンションセンター用の無料駐車場としての米子駅前簡易駐車場の適切な運営管理及び観光パンフレットの提供等による利用促進を図る。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

4 『あした』がいきいき

担当課	経済部観光課					
指標名	基準値 H21orH22	H23年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値 (H27)	目標 達成度
コンベンション参加者数	18,375人	21,558 人	31,312 人	36,709 人	22,957 人	A
指標の説明	<p>コンベンションの参加者数の増加は、観光産業や地域経済の活性化につながると考えられるため、参加者数の増加を図ります。</p> <p>過去5年間（平成17年度～21年度）の平均値を基準値とし、その間の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>コンベンション主催者へ開催支援し、コンベンションの誘致活動、広報宣伝のために、コンベンションビューローの運営に対して、運営費補助金を支出するとともに、コンベンション誘致会議に参加し、誘致活動を支援した。</p> <p>また、観光パンフレットの提供など開催、誘致支援を行った。</p> <p>成果</p> <p>平成25年度のコンベンション参加者数は36,709人で、対前年比17.2%増加した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、継続した誘致活動が重要であるので、引き続き、公益財団法人とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行う。</p> <p>また、米子国際会議場の管理、コンベンションセンター用の無料駐車場としての米子駅前簡易駐車場の適切な運営管理及び観光パンフレットの提供等による利用促進を図る。</p>						

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課		総務部財政課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度	
市債未償還残高の低減（臨時財政対策債等特別債を除く普通会計）		501.6 億円 (22.3.31 現在)	447 億円	419 億円	443 億円	400 億円	C	
指 標 の 説 明		<p>計画期間内に 400 億円以下まで提言することを目標とします。</p> <p>※市債未償還残高・・・公共事業などを実施するために借り入れたお金の残高を表します。</p>						
<p>【25 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>投資的事業を精査することで、市債の発行を抑制し、市債未償還残高の低減に努めたが、土地開発公社の解散及び流通業務団地整備事業特別会計の廃止に伴う借入（約 40 億円）を行ったため、未償還残高が増加した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>土地開発公社の解散及び流通業務団地整備事業特別会計の廃止に伴う借入（約 40 億円）を行ったため、目標達成は厳しい状況だが、引き続き投資的事業を抑制し、市債未償還残高の低減を図る。</p>								

< 目標達成度の区分 >

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課		総務部財政課					
指 標 名	基準値	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	目標	
	H21orH22	実績値	実績値	実績値	(H27)	達成度	
財政健全化判断比率の健全性の維持 ① 実質赤字比率	0%未満 (22年3月31日現在)	0%未満	0%未満	0%未満	0%未満	A	
指 標 の 説 明	<p>計画期間内において、実質赤字を生じさせないことを目標とします。</p> <p>※財政健全化判断基準…自治体の財政健全度を示す指標として国が法律で定めたものです。</p> <p>※実質赤字比率…一般会計を対象とした実質赤字の標準財政規模（地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般税源の規模）に対する比率を表します。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>数値目標の達成に向け、経常予算のシーリング（-2%）や市税等の収入確保等を実施した結果、平成25年度においても、実質赤字比率は計上されていない。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>歳入においては、遊休地の売却や市有財産の有効活用等、新たな財源確保に努めるとともに、使用料・手数料の見直しや市税等のさらなる収納率の向上に向け、口座振替の促進や、滞納対策等、一層の取組強化を図る。また、歳出においては、事務事業の優先順位による選択、補助金等の見直し、借地料の適正化に取り組むとともに、新規事業の実施にあたっては、既存施策の廃止・縮減等を前提として終期を設定する等、効果的かつ効率的な予算編成に努める。</p>							

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課		総務部財政課					
指 標 名	基準値	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	目標	
	H21orH22	実績値	実績値	実績値	(H27)	達成度	
財政健全化判断比率の健全性の維持 ② 連結実質赤字比率	3.53% 未満 (22年3月31日現在)	2.37%	1.69%	0%未満	5%未満	A	
指 標 の 説 明	<p>計画期間内において、連結実質赤字を生じさせないことを目標とします。</p> <p>※連結実質赤字比率…全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模（地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般税源の規模）に対する比率を表します。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>第三セクター等改革推進債を活用し、流通業務団地整備事業特別会計の廃止による資金不足を解消した結果、連結実質赤字比率は計上されていない。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>各特別会計において、事業運営方法等を抜本的に見直し、収入の積極的な確保や徹底した経費の縮減を図ることにより、業務の効率化と経常収支の改善を図るとともに、公共事業については、部分的・時限的な凍結も検討する等、事業の抜本的見直しを行う。</p>							

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課		総務部財政課					
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度
財政健全化判断比率の健全性の維持 ③ 実質公債費比率		21.1% 未満 (22年3月31日現在)	20.8%	19.8%	18.6%	20.0% 未満	A
指 標 の 説 明		<p>計画期間内において、実質公債費比率20.0%未満を維持することを目標とします。</p> <p>※実質公債費比率…地方債の元利償還金等のうち、一般会計等が負担した額の標準財政規模（地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般税源の規模）に対する比率を表します。</p>					
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>新規の投資的事業は必要最小限となるよう厳選する等の取組を継続してきた結果、元利償還金が大幅減となり、対前年度比1.2ポイントの良化となった。</p>							
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>公債費負担適正化計画に基づき、新規の投資的事業は必要最小限となるよう厳選するとともに、準元利償還金の増加を抑えるためにも、下水道事業における投資的事業を精査し、鳥取県西部広域行政管理組合の今後の投資的事業計画の策定にも積極的に関与していく。</p>							

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課		総務部財政課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
財政健全化判断比率の健全性の維持 ④ 将来負担比率		200.1% (22年3月31日現在)	179.0%	161.7%	162.2%	185% 未満	A	
指 標 の 説 明		<p>計画期間内において、将来負担比率185%未満（早期健全化判断基準は350%）を維持することを目標とします。</p> <p>※将来負担比率…地方債の残高等のように一般会計等が将来負担すべき実質的な負担の標準財政規模（地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般税源の規模）に対する比率を表します。</p>						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成25年度中に第三セクター等改革推進債を約40億円起債したことを大きな要因として、将来負担比率は対前年度比で0.5ポイント悪化した。しかし、この起債により流通業務団地整備事業特別会計の資金不足を解消し、会計を閉じるとともに、土地開発公社を解散し、連結実質赤字額及び同公社の負債額等負担見込額を解消した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、真に必要な事業を精査し、新発債を計画的に発行するとともに、特別会計の健全化等に取り組むこととしている。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課		総務部行政経営課						
指 標 名		基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達成度	
市税の徴収率（現年分）		98.2%	98.5%	98.6%	98.9%	98.5%	A	
指 標 の 説 明		財政基盤を安定させるためには、市税の現年分の徴収率を 98.5%以上にすることを目標とします。						
<p>【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成17年度の第一次行財政改革の実施に併せて、庁内に米子市市税等滞納整理対策本部を設置以来、市税等の滞納対策の取組みを継続してきた。</p> <p>具体的には、徴収体制の強化のための集中的な人員配置、悪質な滞納者への差し押さえ等の滞納処分の強化、滞納者への行政サービスの利用制限の強化、継続的な口座振替の利用促進、滞納整理システムの導入による業務の効率化等を行い、その結果、着実に徴収率が改善した。</p>								
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>減少傾向にはあるものの、依然として滞納額は多額であり、今後も、これまでの滞納対策の取組みを継続していくとともに、平成24年度に制定・施行した米子市債権管理条例による債権管理を徹底することにより、滞納債権を極力発生させない効率の良い債権管理サイクルの確立を目指すこととした。</p>								

<目標達成度の区分>

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取組みを強化していく必要がある
- D = 基準値を下回っている。

5 『市役所』がいきいき

担当課	総務部職員課					
指 標 名	基 準 値 H21orH22	H23年度 実 績 値	H24年度 実 績 値	H25年度 実 績 値	目 標 値 (H27)	目 標 達 成 度
人口1万人当たりの職員数	64人 (22.3.31現在)	63人	62人	62人	60人	B
指 標 の 説 明	行政の効率化を進めるためには、職員数の適正化を図ることが必要であると考えられることから、人口1万人当たりの職員数を4人削減することを目標とします。					
【25年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】						
<p>定年前早期退職者の募集</p> <p>事務事業の縮小・廃止及び民間移管の推進</p> <p>組織機構の見直し</p>						
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】						
<p>平成25年度中の人口1万人当たりの職員数は62人(61.53人)であり、目標の達成までには、あと23人の人員を削減する必要があるが、昨年、今年と、育児休業者等により実際に業務に従事できていない職員が35名以上(平成25年4月1日現在:35名。平成26年4月1日現在:38名。)存在するという現状から、実質的には、目標値を上回る人員削減を実施したことと同様の状況にある。</p>						

<目標達成度の区分>

- A=目標値を達成している
- B=概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである
- C=進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある
- D=基準値を下回っている。